

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年8月14日

【四半期会計期間】 第35期第1四半期(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

【会社名】 株式会社安楽亭

【英訳名】 ANRAKUTEI Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 柳 時機

【本店の所在の場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務経理部長 安部 一夫

【最寄りの連絡場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務経理部長 安部 一夫

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第34期 第1四半期 連結累計期間		第35期 第1四半期 連結累計期間		第34期	
	自 至	平成23年4月1日 平成23年6月30日	自 至	平成24年4月1日 平成24年6月30日	自 至	平成23年4月1日 平成24年3月31日
売上高 (千円)		3,675,820		3,872,024		14,941,395
経常損失() (千円)		91,754		32,578		251,974
四半期(当期)純損失() (千円)		85,286		79,653		474,483
四半期包括利益又は包括利益 (千円)		85,346		89,911		472,332
純資産額 (千円)		5,114,170		4,636,522		4,726,951
総資産額 (千円)		14,333,536		13,772,570		14,132,596
1株当たり四半期(当期) 純損失金額() (円)		3.99		3.72		22.18
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)						
自己資本比率 (%)		35.6		33.6		33.4

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失であるため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、連結子会社のうち、(株)サリックスマーチャングイズシステムズ(存続会社)と(株)デリーエクスプレス(消滅会社)及び(株)相澤(存続会社)と(株)二十一屋(消滅会社)は、平成24年4月1日付で合併しております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、東日本大震災の復興需要等により、一部に緩やかな回復基調が見られるものの、欧州における財政危機を背景とした世界経済の先行きへの不安や、円高・株安の長期化により、国内景気はなお不透明な状況が続いております。

当社グループの主力事業である外食業界におきましても、東日本大震災の影響からの回復基調を維持したものの電気料金の値上げ、消費税増税の動き等により消費者の節約志向は依然として強く、焼肉の売上は他社焼肉チェーンでのO-111等の食中毒事故の風評被害で大幅ダウンした昨年より少し良くなっておりますが、ファミリー層の客足の戻りは未だ十分ではない状況にあります。

このような状況下、当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高38億72百万円（前年同四半期比5.3%増）、営業損失10百万円（前年同四半期は営業損失66百万円）、経常損失32百万円（前年同四半期は経常損失91百万円）、四半期純損失79百万円（前年同四半期は四半期純損失85百万円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

安楽亭業態

当第1四半期連結累計期間に1店舗を閉鎖した結果、安楽亭業態の当第1四半期連結会計期間末の店舗数は203店舗であります。内訳は直営164店舗、暖簾5店舗、F C 34店舗であります。

販売促進並びに商品開発につきましては、「スポーツ家族応援！おかわりフェスティバル」、「大恐竜フェア」、「初夏のパワーアップ半額クーポン祭」等、安楽亭の楽しさを伝えるフェアやメニュー作りを行ってまいりました。

以上の結果、安楽亭業態の当第1四半期連結累計期間の売上高は32億84百万円（前年同四半期比5.5%増）となり、セグメント利益は1億3百万円（前年同四半期比212.1%増）となりました。

七輪房業態

七輪房業態の当第1四半期連結会計期間末の店舗数は23店舗であります。内訳は直営21店舗、F C 2店舗であります。

販売促進並びに商品開発につきましては、人気大皿七輪房盛り合わせ等のグレードアップや「春の彩食健美フェア」、「生ビールスクラッチフェア」等、七輪房の楽しさを伝えるフェアを開催してまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当第1四半期連結累計期間の売上高は4億45百万円（前年同四半期比8.6%増）となり、セグメント利益は26百万円（前年同四半期比226.5%増）となりました。

その他業態

当第1四半期連結累計期間に「スندゥップcafé KARIN」1店舗を開設した結果、その他業態の当第1四半期連結会計期末の店舗数は17店舗であります。内訳は直営9店舗、暖簾2店舗、FC6店舗であります。

以上の結果、その他業態の当第1四半期連結累計期間の売上高は1億42百万円（前年同四半期比7.6%減）となり、セグメント損失は13百万円（前年同四半期はセグメント損失13百万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ3億60百万円減少し、137億72百万円となりました。これは主に、現金及び預金が減少したこと、有形固定資産の減価償却等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ2億69百万円減少し、91億36百万円となりました。これは主に、借入金の減少、支払手形及び買掛金の減少等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ90百万円減少し、46億36百万円となりました。これは主に、四半期純損失の計上によるものです。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成24年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年8月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	21,504,347	21,504,347	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は 1,000株であります。
計	21,504,347	21,504,347		

(注) 提出日現在発行数には、平成24年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年4月1日～ 平成24年6月30日		21,504,347		3,182,385		147,735

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 108,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,196,000	21,196	
単元未満株式	普通株式 200,347		一単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	21,504,347		
総株主の議決権		21,196	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式500株が含まれております。

【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社安楽亭	埼玉県さいたま市中央区 上落合2-3-5	108,000		108,000	0.50
計		108,000		108,000	0.50

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	999,864	833,491
受取手形及び売掛金	288,272	241,389
商品及び製品	89,159	107,706
仕掛品	326	261
原材料及び貯蔵品	230,144	238,365
前払費用	216,623	214,617
繰延税金資産	2,733	224
その他	129,359	101,654
流動資産合計	1,956,482	1,737,710
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,697,949	2,643,326
機械装置及び運搬具（純額）	19,958	20,136
工具、器具及び備品（純額）	75,069	72,988
土地	5,991,424	5,967,908
リース資産（純額）	20,304	19,008
建設仮勘定	183	-
有形固定資産合計	8,804,890	8,723,368
無形固定資産	103,222	103,198
投資その他の資産		
投資有価証券	63,830	53,481
長期貸付金	911,971	899,770
長期前払費用	29,822	30,880
繰延税金資産	10,348	10,200
敷金及び保証金	2,931,177	2,893,793
その他	58,381	57,517
貸倒引当金	737,530	737,351
投資その他の資産合計	3,268,001	3,208,292
固定資産合計	12,176,113	12,034,859
資産合計	14,132,596	13,772,570

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	498,372	436,815
短期借入金	6,843,494	6,710,337
リース債務	5,443	5,443
割賦未払金	60,828	39,679
未払金	214,915	228,496
設備関係未払金	61,985	17,724
未払費用	451,194	491,633
未払法人税等	90,181	59,719
未払消費税等	45,665	69,519
賞与引当金	61,400	30,700
転貸損失引当金	2,680	2,680
その他	447,296	423,083
流動負債合計	8,783,458	8,515,835
固定負債		
長期借入金	11,400	-
リース債務	15,876	14,515
長期割賦未払金	7,301	2,056
繰延税金負債	115,566	115,445
退職給付引当金	122,052	124,120
役員退職慰労引当金	249,637	260,991
転貸損失引当金	31,367	31,099
その他	68,985	71,985
固定負債合計	622,186	620,212
負債合計	9,405,644	9,136,047
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,537,261	2,537,261
利益剰余金	909,540	989,194
自己株式	66,105	66,463
株主資本合計	4,744,001	4,663,989
その他の包括利益累計額		
その他の有価証券評価差額金	24,369	34,627
その他の包括利益累計額合計	24,369	34,627
新株予約権	7,320	7,160
純資産合計	4,726,951	4,636,522
負債純資産合計	14,132,596	13,772,570

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
売上高	3,675,820	3,872,024
売上原価	1,354,459	1,409,270
売上総利益	2,321,360	2,462,753
販売費及び一般管理費	2,387,534	2,473,115
営業損失()	66,173	10,361
営業外収益		
受取利息	8,677	8,404
受取配当金	701	983
受取地代家賃	2,708	2,671
貸倒引当金戻入額	1,384	158
その他	8,723	9,560
営業外収益合計	22,195	21,779
営業外費用		
支払利息	45,230	40,787
その他	2,545	3,208
営業外費用合計	47,776	43,995
経常損失()	91,754	32,578
特別利益		
固定資産売却益	2,449	476
受取補償金	30,464	-
特別利益合計	32,914	476
特別損失		
固定資産除却損	984	7
減損損失	-	23,632
賃貸借契約解約損	7,844	4,632
特別損失合計	8,829	28,272
税金等調整前四半期純損失()	67,668	60,375
法人税、住民税及び事業税	17,463	16,620
法人税等調整額	153	2,657
法人税等合計	17,617	19,277
少数株主損益調整前四半期純損失()	85,286	79,653
四半期純損失()	85,286	79,653

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	85,286	79,653
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	60	10,257
その他の包括利益合計	60	10,257
四半期包括利益	85,346	89,911
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	85,346	89,911

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
<p>連結の範囲の重要な変更</p> <p>連結子会社のうち、㈱サリックスマーチャングイズシステムズ(存続会社)と㈱デイリーエクスプレス(消滅会社)及び㈱相澤(存続会社)と㈱二十一屋(消滅会社)は、平成24年4月1日付で合併しております。</p>

【会計方針の変更等】

当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
<p>(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)</p> <p>当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。</p> <p>なお、これによる当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。</p>

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入金に対して、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
㈱書楽	222,125千円	216,788千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
減価償却費	102,043千円	86,333千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	3,111,768	410,067	153,984	3,675,820	3,675,820		3,675,820
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	3,111,768	410,067	153,984	3,675,820	3,675,820		3,675,820
セグメント利益又は 損失()	33,313	8,215	13,363	28,165	28,165	94,339	66,173

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注)2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	3,284,392	445,327	142,303	3,872,024	3,872,024		3,872,024
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	3,284,392	445,327	142,303	3,872,024	3,872,024		3,872,024
セグメント利益又は 損失()	103,963	26,819	13,991	116,792	116,792	127,152	10,361

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注)2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

なお、これによる各セグメント利益又は損失に与える影響は軽微であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては116千円であります。

報告セグメントに帰属しない全社資産について、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては23,516千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額()	3円99銭	3円72銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額()(千円)	85,286	79,653
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純損失金額()(千円)	85,286	79,653
普通株式の期中平均株式数(株)	21,395,749	21,395,348
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年 8月10日

株式会社 安楽亭
取締役会 御中

監査法人アヴァンティア

代表社員
業務執行社員 公認会計士 小笠原 直 印

業務執行社員 公認会計士 入澤 雄太 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社安楽亭の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社安楽亭及び連結子会社の平成24年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。